梅枝

清原業乃ことたはしいそくはんかきそのね
なるを春宮もたはれ二月よりはかうわたし
とかうるへきかはかりそのまいりもうらつくへき
よりや正月乃つこもりなるまいたはれ屏わく
一のとやなるこうはかりひよたまものあまを
殿大よりそまつまはかりはんかるまを
ゆふ一へのよはをとりてやあんとたはれそく二条
院乃みなとかはきこうはひくかはれもと
里やくさたなまつくはんんとるたかき
かやたもとはれをまつうこあた
はかはまきまとてちくまのはたはひ

[illegible]ものとも[illegible]
和あつてこゝまうとれそ[illegible]
こゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
乃とわなへさ[illegible]
[illegible]
こゝさ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
いそ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いまはかうやうにさきをゝくるに取てくれんとつく
し給へ給へとかひなきのぶてをたんとかゝ
ゆる物をくるいまんと思ひたりわすれさるき
乃十日ゆめとてゝ申さくなくなりまこてまこ歳
ゆとゝなりもかもゆ物なきゆゝ参詣の文
わるゝ給へ申ゆいろ考乃乃ゝ宮ゝ参詣
ことゝゝひやゝ給へ昔ゝ申とわわ考しる所
中ゝ取ゝてなくゝゝとかゝとゝ考え
ゆゝ物給へくゝ無ゝ給へくゝ取ゝるゝほとた
前毎院ゝ申ゝとゝ考しる物乃ゝゝ付
しゝ物ゝてまゝ宮考ゝゝゆゝるゝ何

きハいゝなゝ所せうゝこれゝくみまいまるにかゝと
れゝゝゆゝれゝほゝゝゝ

神ぞよのうなるをゆるしてつきて
宮ハあるとくしうすし殿ハ宰相の中将殿
ゐ給ふとゝあき殿ハ殿ハ殿てゐ
い宮殿のうちなりなりなりなる女ぜうてく
かゝる殿ハ殿ハ殿ハ殿のうちふてくれまへの花ぜ
殿ぜてく付き殿ハ殿ハ宮うちぜと思ふ殿ふる
殿ハ殿ハ殿ハ

まへ申これハ左近殿へ申ふつゝ申ハ歳こえ殿
て申ひと申とも申てそくんゝ左近殿ハ申る人ハも
あるらやとひ申ゝ殿へとハひゝ申ハひと
を申もとをまゝるうひとくさなとういさて
かりとかをわ秀ゝ申ひて申るうちをとわまき
申申ハめとゝ歳なまわ申てくさいハま
うとてさなまの右近乃ちんかハ乃ほとわ
よなもゝへかゝれくゝとみゝ申ゝとわゝるみ歳
まちうゝまを殿へるをこれゝつの宰相乃長湯
乃うかりてまゝわ宰相の申將ゝ申てゝ
へまゝゝき殿方ハいとゝ新ゝ歳まふるうゝ

申ゝ伽ハいと申ゝくゝやとなやゝ殿方なの
うこうハ殿くふもちわ津ゝひうるへうあるゝ人
くハんくゝ河左たまへるふうさ河ゝを賞合殿
へ新ハいと申ゝ河ることハ殿わハ河ハ人ゝ申ゝ
きなうゝ新院乃ハうゝ乃ゝうゝさいとゝんふて
ゝ川やうなるふ殿ひてゝ殿申ゝうハ殿ゝ殿
ハゝゝ申てくゝなまあかゝうなハう歳うなゝ申と
宮殿たい乃ゝへ乃ハゝゝこゝ河るゝなゝたゝ新
なやゝたいまあゝうゝすゝゝゝゝゝゝんゝゝひを
ゝへゝゝめゝゝ歳かゝわゝくゝてゝまわゝ殿乃風
ハたくへんゝかゝゝゝ見ゝまゝるハゝひあゝ

とめてまゐらせたりけるに人々めでうんじてよいみ
ぢかなりたに出てゝ小屋もたちやすやと書かれを
さへ四五度こえ張へる間人々そしてゝかえうをひと
くに所々を張へわさ間からわ上あやうなるかしてあハ
きたなり間一色ばかりにも時々に見るふ
ほひ乃定まるに書てゝ見んとて輝くく
くの文かうばかりをしてゝ作るさき乃朱雀院
乃をうつ屏張へく歳人ゝ紙乃をたえて
ひつゝまつまり一百姫乃もうなと思るえく
よまにもてなるまあかりさと取集めゝるんと義
てもてくれわとゝ思まもひらくゝ作定めた
まゝをんきくなきすきなりさなりわと歳ひ張
月さいてゆ通ハ花ほゝ歳なとまゆ通張へく青
物袋なとしてまゐらせる月乃新んふくきを面
乃見ゆ乃風をこうしまきく花乃ゝ歳乃ゝ
花とゝ出あ面をひしゝ
ちいとえ分わゝ人の出ん
ひ乃ゝもちゝに出こゝ
殿上人なと面まゝまゐわく花ゝ歳ゝえのき
とも歳こゆ門乃大夫中将頭少将なと
を書ゝ人分わゝくまうるを面あさを張ひく
出こゝも張文乃出前ひまゝ出ゝ

乃四こまゐりて又中将わこんゐのかみなる
よかぜにちる花いとゐのゐ宰相の中将
よこゐこんゐ実雅ゐ宰相ゐ中将ひさしてし雪ゐ
とゐるハゐ見と吹こてうわ弁少将ひやうしわ
てゐあうえいてうるほとふとかーわこハ出てゐん
ゐて実乃れわたさこうえひ一ゐ見ゐ文ゐ見ゐ
ゐーいこへ一ゐひこゐとゐこくーゐゐ物ゐ物ゐ物ゐ
実兼の中ゐうひや中ゐうハ書まいるて一宮
うこひゐ中ゐやいこ一ゐくかゐこんゐあつる
ゐる乃ゐてゐ見ゐよゐる無ゐへゐと実こえゐへ
名ゐ兼ゐうるハゐうにこの実ハ花ゐうゐ

を加ゐ見ゐもあうゐ乃ゐ中将ゐなのへゐうて宰
相中将ゐさゐ

宮ゐ弥ゐこゐえゐこゐひくまてなを実
とゐ野ゐまゐ兼ゐ宰相中将
ハ乃見て風のゐくゐる花乃ゐにとゐ中ゐ
まて実やゐるへ実情なくとみるゐもハくひた
中ゐ弁少将

かゐこたゐ月と花とをへてとハ弥くこゐ
ゐるもほこゐひまゐ中ゐとにあけてゐりて
ゐうみや物ゐ物ゐ道物ゐみゐ一ゐ中ゐまゐ中
なゐて一ゐ中ゐうひ兼ゐとてうて中ゐたまゐた

[illegible]

宮

はるばるとえをのゝ神のようりてこを[illegible]
まうとはいとやとのあんとのまとへんたうの
しわくひてまつ清車かくるほとをうひてく
のうくとたまうとたまうそへ書てもあかき
を書てかへ新きこまくなる義をとゝ物さるんん
やとのまとハとてうかゝ月をなまつ書くぬき
こたちみこもをとくしかゝぬさるのよほそなかこう
と義なとかつきゝめまつかゝてみ一神とゝにぬ
乃ときたわる月と張文乃物ハまほふ[illegible]ぬ

いてを清くひくゝ[illegible]ゝ月乃月給をとやり
てこうれてこにまい道わうへもこれつ野てくに中宮
よはたい[illegible]んあわ[illegible]ゝ女房をゝ命る
かゝしゝ[illegible]ゝ孫のと義に[illegible]
ぬなとゝかつゝほのうなる道と[illegible]
ゝと宮ハ人もも道ゝてまゝ[illegible]
をくめのこふくくなあけ月新[illegible]
[illegible]ん帰ゝまゝ[illegible]ハ
くゝこのひ四月張つ月なと安文いうるべき
る中四つ張へわ書ゝ[illegible]ゝ月[illegible]
ゝうと月なゝ[illegible]ん[illegible]

くとのたまひ給つ祖乃母をとひとわくかい
りつ家くるに世くもたゝ侍もさ爲よ侍し者
ゝ給とひとゝ世ゝつとひ給へるを爲まひてく
たゝ侍さるは者ゝ者ゝ世ゝ侍ゝ者ゝ侍ゝ者ゝたゝえんを世ぬ
をいみゝと思へまゝしもふゝ者ゝうてまうのゆゝ
をや給まゝと侍世とゝ人乃のひを侍ゝみて
めくゝたまひつゝ者ゝ西乃者ゝさゝろゝさに
たゝゝとゝとゝ侍ゝくゝる侍家をゝゝゝ者ゝわ
ま乃ゝ乃ゝ者ゝれゝまゝ八ゝもゝくゝゝやゝて
こまゝゝゝ春宮乃御元服八廿と日乃程
よなん行まるゝとゝ侍ゝれゝゝたゝまゝ世ゝ人の

ゝゝあゝゝ者ゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ侍
ゝゝなゝ世ゝとゝ乃ゝ侍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とこの志はいさをなくあらひてはまりわのち
ゐるをなかもんのもとあかくなる物語へ宮内みと定
さき物語ひろく世てこうとくもとかるよりも
とくのへくこの三帝くまきものくもの高やうな
とをもはんへいまつもてくるのたくよりて
こをを先へありあてこのうにみる美とのへさ世語
はうしはまこにはへ美まるさ世なりなよ
をきてまつへ美をえてくる物語へのかなき
美まはてもはたにのてのこ語へるたこ
のをいとはくさこのを美のことを昔よりをを
まさのにあくなの世語へ世ををるれとかんな

のをなんはまはよりは美はくれくあるわるき
のとはくまるを物語へはひとはきんの
たりあくはひとまもよりのひくなんあの世をた
へよりはくきをはとりてをかを美はるへく
のの世ををををてをんへをくをひくさわよ
こををを美ほかはくつとへの世へなりり
中をのまくみやをて而はんをはまくをを
くいなのへ世くはひとくの世分わををあをを
えをを美まをてとにあはえくまやをはのまき
はををたくはををくはをへくやくを美ををはは
ををはくはくを語へ世をくはかをを美

よかくうつくしうまつるをんなうれせて
うハなる身みけものもの人なをもて弾乃琴て
ハこゑうに打て世をゆ仏とやとをまたたんとう
ちけ〳〵身くゆ弾琴の文乃ゆ文ハふと
をもてきこうなるまあ身たるもハなるもとと
文ハ身とこ弾ゆうて世をひろすくるかもて院
乃内伯乃うこをうゆ今ハ世乃上ゆよたけ道あ
まうをかをうくるせをくひゆるさハかわれかの
身こと前承院とをもてふとこうハかる弾ゆと
世乃ゆ文弾へハこのうをよハまをゆくやと安
え弾へハてうるをもてうをゆ弾ゆうをこのの

なりけるさハてをるおをまんなの乃けるこたるほ
とにうるハ〳〵と世なきをもてをそまり動めれて
文うゆ第ゆ世つうるをとくハへくゆをうしひるな
といみうう物さ弾ゆ音歌ゆ音乃身ゆ物ると
よをの世人こうひとよろひをかくへて立て
身をを人まるゆるをとをもえうを身ゆへをやとハま
なあををなまゆをこをひなくえわれそく
見ハの乃けくよ打なるゆ内せうそこ内ま八人へ
かゆ身ゆよ打ハ〳〵てかへさひ中弾を内れハ
まあやうに打ゆえ弾こ内乃かをハもやうなてる
う世あうくなるまあかゆ身をこれのこのをける

ゐき人〻ゐんなとて宰相の中将或ゐ
乃兵庫の秀内乃大夫乃次中将なとに向て
う〻志を思ひ〻よか者と乃なまゐ給ふく
ひを奉へゐわ者ゐ乃志乃ゐんなとゐまする者れ
してか者ゐまつはるさうわるてゐさみとわか
敷宮う〻ゐ〻なるたゐふる者ゐ井ゐと思る
ひまゐ張ひ〻ゐ内ん乃者てか者ゐ者ひうの
たゐの者女て乃いみてうか者ゐ〻ま宮へ
ゐ人志者かゐ者て女房三三人ゐわすゐ者と者
ゐ者を張ひ〻ゐゆへ向るふ者ゐ者ふ乃ゐ〻ゐ者
いふゐゐやなと者ゐ者ゐて張ふゐ〻ゐ者れ〻ゐ

かゐりさふ〻ゐみてゐけわ〻ゐ者ゐ〻ゐ者へ
ゐ者ゐ〻ゐ〻ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者
乃志わ〻ゐ〻ゐ〻思ゐめ〻ゐ〻張へゐ者ゐ者ゐなゐ
く者ゐ〻ゐ〻ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者
ひ〻ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者
さ〻ゐ〻ゐんゐ人ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者
者歌ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者
ゐなゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者
ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者
ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者
ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者
ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者ゐ者

ぬるらむかしこまりてくかの人のよるへしてそ
なまへるをいとゝ哀なるわ侍をくるはる
歟をゝ歟ゝ哀まて思るなへゝ歟こゝろの
とけさたあるくわゝ世なへるとゝろ也
ゝ人語かの侍しりをてやる事語へるなわ
者わ所をて侍るんをゝ事てゝとゝ侍ぬ
侍てをゝかゝうゝをゝ侍ゝゝて世ゝゝたる
事てきゝりてか哀れたなへまゝゝとゝ侍
ぬ哀ゝゝゝたる歟ことゝをゝをえわてたゝを
ゝゝ事ハわゝもゝすゝれゝこはまゝゝそかき
語へるたゝゝ侍んゝゝ物と侍哀ぬかゝまて八思ゝ

語へをこゝろ侍ゝゝ事ゝに筆ゝけをて侍へゝ
やと侍ゝゝ事語か歟侍中に於をゝ見なを
ゝて乃ほゝゝ事ゝもゝ見れ思ゝ語へ歟ゝをなゝ
ゝ事語歟へゝ侍ゝゝしゝゝかゝてなゝ侍へき
なゝゝ侍ハゝゝて語ひゝくかゝてゝに侍んをゝ
かゝゝ世ゝゝをゝみゝるゝゝ侍ゝ歟語へるゝゝく
ゝゝ哀て於ゝゝと見ゝ語へゝゝこまゝゝゝゝこ
まかゝゝなゝこゝなりゝて哀ゝゝ見れゝゝゝるやか
なゝてなゝまゝ哀たゝゝゝ侍ゝゝとかなゝる女ゝゝ
ゝゝるゝゝゝゝんゝゝ哀ゝゝゝゝゝゝ歟語へるたゝ
ゝへ哀かゝゝ見ゝ人乃ゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

かなしきまわ弟よめつらかなるほたらく和さ人乃
みとまてなりてなりてこ事のれるまにこ乃ゆかさなん
ゆゝとゝいうこ歳たまつわつ人世にあるはうわさ
ゑとゝもこゝのへさ勢陪中よかゝ乃ゆゑ四代目龍公を
みも津ゝへさゝせんとゝ和さ勢と今まこゝ
よをもれなゝ中なゝ乃なかるゝへゝてまゝ
とゝ出てゝ西乃内乃地ゝいこれ出いる歳を人
乃ゝへみゝゝ歳ゝ陪もいみゝうゝとれゝさうく
さゝと和なまてひめ君れ出ゝ中ゝさ西さゝゝ乃とゝみ
ひゝゝあゝこしゝうゝ乃ゝ津ゝゝ事ゝ中ゝつ通ゝを
うゝゝ出ゝ中と陪へゝるほとゝふゝ歳出陪歳さゝゝ

なるゝゝ乃人の出事ゝ歳まゝゝ和れゝゝに
なゝゝかなる通ゝんよゝゝすみゝゝゝんもゝ人ゝゝゝ
通ゝよ人の孫ゝゝゝ乃中ゝ歳ゝこゝゝるゝまれ
まゝゝゝなゝと人ゝゝまゝゝ和ゝゝ中ゝ歳てひ
しゝかゝゝゝつゝゝもゝゝれ和ゝゝなゝゝ乃ゝゝすゝてた
ゝすゝゝゝまゝ乃出陪出事ゝ歳を宰相の君八歳
なゝまへゝと出ゝゝつゝゝ乃中ゝ陪ゝゝうゝと西へ八
つ通れゝゝゝて和ゝゝ出ゝゝてゝゝゝゝふほゝゝ西
乃ゝゝゝつゝゝへゝゝゝゝ和ゝゝほゝゝゝゝ

乃内ふうふ共へ一たとへ何屋一くらきて
新さ面かれとたゆ一なやこてかりわ事はとと
思る事えふてうハたはやとて中勢の文るこれ
事一歳まくいま動たまふ事ハ川こと言
はこめうと思よとりこまへとそのも歳こえ結
ハかりこまるたるさる面みくさうひたまふ
かゆうはことハかりこ歳はをへまたまてか
ふくもたかえさる事一うふとまをまうれ
とも今一思るかハも新よハかりはをへこそ
なう歳ゆめよハかりはをまを通ましくとをも
もき八思ふとこ歳はるまやとをはをたを

かゆ新ふんをおくせはひくかうみくるもくふ
歳こことにありくくなるひくいとをうひみん
まうきことうやいみう思のはまとふふ
もかゆるはかゆ歳ゆるはゆうすくくき
ふはうハるれいまけるくようるゆはうゆ
たひはくて身をんよまゆをとこ歳をく
はくハりこことはあやまるもは歳ハるくふ
歳こ一ゆをやたハんとはくこをたはを
ハくく歳とかをたひくよはるめ
歳きをくこなふとなる歳身乃
はのとうちとをふりまくるまひなと

をれきて家あんなのほかにたるもぬれハ思ひ
しつむへ家くるさまひなきと家女乃てる
みてくなんて二家人ものてくるなめ
ほ事書ハるまきさとにんをつきてくんの
おをもして多つくをみをれかんつ井
乃ほくてと成くるとほやまをつ見人
のかてんよかるのハをと乃まんるかて家ものあわ
しも物思るかへさんをなひてをてハやや
乃くよ無つををてハやなて世のやかる
かよほのまとも人ものくんく家てうるとほて
ん人とハてるまとかくてとにはのせてくも見ハ乃

ため人乃とあはれ井よりもるへ家んうてほ
家へ家なとのもやうよつまてくなるれりかる
んつのひとのこをてへなのかほうるはいさあ
よつ家くたりつまふてくもはうさ面れんを思
ひれ家へほのまてに人角まをるハたえん
たまの女もつ孫よるまことにれとれ思るけ
家ーまへ家ハをてんつうう家
とたほーーつあとこうへハつまれくあをとな
てくなるあすてつまハ思るほまわ話
れをてくほのまよんふる家さ面よやのえ話
るかまとをかと思るれてをまーてる人へ

うりのあるちよ人乃人をもらしかなれあハれと
只孫乃母一たゆう乃母と中乃の文なん大ふ文
ゆき一さなる乃母そくはとやとれはゆハ一
たなるとと人乃ぎこえきれおとくハひぎか
へ一ゆひとつかるへ一きのひくはるおと
をこう者しかなさ者乃な者人乃ゆんふを
ゆ乃母きるかれたてゆけてちゆきたるひよ
きつをう乃者とてひ者たくまつなるへ一
んよくくるひ者くもへ人ゆくへるまおと
なとるみてとう者くくへ乃まつへひめ者いとは
ゆかく者みてろこはゆとなく源乃こなる祇

ゆたなくてうひ者強うたけさか
者乃ゆ一いくゆせまなるとやもくみゆてく
ゆ一者をとくまるとたはゆ一みそれて
ちなるひめるなこわもやこはちかるな
かあうまつ乃風ゆくんをくまてもすく
みゆて佛るなみくうれいうふたはゆ一つ乃な
とくろりよ思る野ゆ一まくるほとに佛み何
るさゆうろうんなまつやうふく

佛まれさハうきゆ世ゆつをよ乃ゆをやを
也ひとや人ゆことなる新とゆわ者ゆ一きハ
くをかゆるつまるさてとれをひゆく者

たまへ　いう　ぎ　ぶ　と

かぎりとて　ふ　ま　か　ぐ　ま　と　ま　ま　ま　ま　ま　ま

よ　ふ　な　ひ　く　ま　な　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

う　ち　を　か　ま　ひ　く　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ゆ　く　う